



第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会 に参加してきました。

皆さん、こんにちは。

今回は、やや内輪話の内容になります。

よく医師が学会出張で休診というお知らせを目にすることがあると思います。

では学会で何をしているのか ということについて今回は触れてみます。

私が出席してきたのは、日本臨床腫瘍学会という、がん治療をしている医療者の集まりです。学術集会の中身には、主に実際の診療の中で得られたことの共有と、これから使用できる治療法の解説などが取り上げられます。これは、他の医療施設の話聞いて、明日に活かすということと、自分の施設での経験を他施設に伝えて明日に活かしてもらうという両方の側面があります。

他の施設のことで今回私が興味をもったことは

- 1 抗がん剤の点滴の際の血管痛に キンカン がきくかもしれない。 というもの
- 2 抗がん剤治療をより安全に行うためにしている工夫 いくつか
- 3 がん関連の遺伝子発現に応じて、今後、治療体系がダイナミックに変化していくことです。

1については直接当院でためしていくかは別としてひとつのヒントにはなるかもしれないと感じました。2については、みんなと相談して、まねできるところは取り入れたいと思っています。3については、引き続きがん治療の流れに乗れる体制作りと継続した勉強をしていこうと思っています。

一方、当院からは 外科から1件、私のいる腫瘍内科から3件 情報を発信しました。

うち、当科の2件は、研修医の方に発表してもらいました。お二人には、将来どの科に進まれるにせよ、何らかの形で、がん診療に関わりをもってもらえればと思い、経験を積んでもらい、立派に発表してくれました。

もう一つ、ある意味、学会出張を通して大事なことは、新たな人脈の形成です。発表の際の質疑応答はもちろん、名刺などやりとりをして、その後も継続的な情報交換ができるようになることがしばしばあります。医療というものは、結局は人が行うことなので、人と人とのつながりがどうであるかということがとても大事です。もちろん、合間に当地の美味しいものを食べることも、名所に足を運んで英気を養うことも楽しみのひとつです。体重管理には気をつけないといけません。

では、また。

